



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

我が家の夫婦生活

石川県立中央病院 呼吸器内科 湯浅 瑞希

現在、後期研修医4年目として日々上級医の先生方にご指導頂きながら、診療に従事する毎日です。私は千葉県出身で、都会に憧れ高校は東京に通いましたが、その後は自然あふれる群馬大学を卒業し、石川県立中央病院で初期研修を行いました。今回『女性医師の窓』のお話を頂き、何を書こうか随分迷いましたが、一番初めに頭に浮かんだ、医師同士である我が家の夫婦生活についてつづりたいと思います。

私たち夫婦は結婚してもうすぐ2年になります。現在、夫は腎臓内科医として他県で働いているため一緒に生活することが難しく、また実家も遠く、子どももおりませんので、私は金沢で一人暮らしの状態です。平日のほとんどは職場で過ごし、夜は夫とLINEで連絡をとりあって無事を確認します。土日になると、お互いオンコール（夫の場合は透析当番）がかぶらず、日当直にあたらず、学会もなく、重症患者さんを担当していない週末という条件付きで会うことができます！内科同士でかつ勤めている病院が離れていると、会う機会は限られ、場合によっては月1回ということもありますし、会えたとしてもどちらかが病院に呼び出されることもありますので、寂しく想うことは少なからずあります。それでも今は仕事が楽しいですし、主婦業にあまり時間を割かないことについて夫の理解が得られるのであればこういった夫婦の形もありだと思っています。そうはいっても、やはり志望科を決めるときは悩みました。私が入籍したのは研修医2年目の年でしたので、医学部時代から内科を志望し、呼吸器内科に興味があったものの決して重症患者さんが少なくない科を選択することで夫婦の時間が限られ、夫が私に愛想をつかしたらどうしようと思ったりもしました。ですが、基本的に私の考えを尊重し、やりたいことをやればいいよと言ってくれる優しさに甘えて、今は呼吸器内科医として過ごす日々にやりがいを感じています。私の人生で幸運なのはこのような素敵な夫に出会えたことだと思っています。また、私の『この日は夫に会いたい』というわがままを尊重してくださる職場の先生方・後輩や、夫に会う日は空気を読んでいるのかよほどの緊急事態でなければ電話をかけてこない(!?)病棟スタッフには感謝しております。逆に、平日はどんなに電話がかかってきたとしても、寝ているか自分の趣味（旅行雑誌を買ってその国に行った気になること、録画したお昼の情報番組を夜中に観ること）に没頭しているだけなので、いくら呼ばれてもかまいません。ですが、出産・育児の機会に恵まれれば、ライフスタイルは変化していくことになると思います。今後どのような転機を迎え、その時どのような選択を自分がするのか、正直言って全く予測もつきません。それでも、職場には医師同士という先輩ご夫婦も多いですし、窮地に陥った際にはアドバイスを頂けたらと思っています。もうすぐ年が明けますが、来年こそは朝早く起きて早朝回診ができるような生活スタイルを送り、もう少し料理ができるようになりたいと思います。